

サンディアが流行中

GRAPHIS
クラブイベントの収益金を途上国に寄付
カンボジアに学校
建てるってカッコいい

日サロで肌を黒くし、茶髪をなびかせてナンパに明け暮れるギャル男たち。そんな「チャライ」イメージの彼らからは似つかわしくない、ポランテアがにわかに盛り上がりを見せている。

参加者はギャル男やギャルがほとんど。*「ノリ」*の延長線上で始めたイベントだったが、回を重ねるごとに趣旨を理解する人が増える。累計700万円を寄付している。

中でも、最大規模の活動を誇るのが、学生医療支援 NGO のグラフィス。全国で 6 つのインカレサークルが加盟する途上国支援プロジェクト「ラブチャリ」を発足させ、年 2 回のクラブイベントを開催。その収益で、すでにカンボジアに小学校や病院を建設している。

「これまで生きてきて、人に感謝されることって一度もなかった。それがカンボジアに学校が建ったとき、現地に行った子供たちが拍手で迎えてくれて、その開校式は今でも忘れられない。発展途上国の子供って思ってた印象とは違って、目が輝いていたのがインパ

クト大でした」(石松くん)

するとしか頭になくて、「出会
る」を目的にして、医大生中心の交
流パーティを企画していました」
とは、グラフィスの立ち上げメン
バーで現在はOB会長の東京医科
大学付属三才会代表理事の三村
孝一さん。三村さんは、この「出
会」の活動が4年目を迎
え、途上国支援というキーワード
は着実に後輩に受け継がれてい
く。何か熱いことがしたい！って
持ちしかなくて、別に最初から

ランディアに興味

「そのイベントで収益が10万円ほど出たんですが、ひと晩で居酒屋で飲み潰しちゃって。このカネ、何か別のことに使えばよかったなって後悔したんです。そんなとき、メンバーの一人が郵便局で「カンボジアに学校を建てよう」とってポスターを見て、「これやろうぜ」とってメールしてきた。学校建てるとか、カッコいいなって。ノリで

やないんです。でも、イベントに参加していくうちに、ガチで活動していくことに驚いて。路上にツバ吐くって倫理的にどうなの？とか普段から思うようになった。自分もだけど、活動を通じて意識が変わったメンバーは多いんじゃないかな（現代代表の川崎洋くん、法政大学2年生）

サークルOBには一流企業の中

サークルOBには一流企業の内

子供たちの笑顔に
マジ感動っ！

イベントには600人が集結。その税金でカンボジアに小学
校と診療所を建設し、夏休みには現地を訪れる。右が真の左
が現地の川崎さん。右が初代代表の山松さん。彼らの活動が
生じた「マジカの子をうらなひ」を「読書社」が発行中。

定を蹴って 途上国支援を行って
いるメンバーもいるとか。

「学校を建てても、状況は何も変
わらないって無力感もある。だか
ら、社会に出て世の中を変えなき
やって思いますね」（石松くん）

渋谷PEACE祭実行委員会

金髪にピアスでも
認められるんすよ

イベントを主催しているギャル男
「い」などを実施している。

系サークルは、ほかにもも存在する。都内の大学生が中心メンバーの渋谷PEACE祭実行委員会もそのひとつ。彼らは年に一度「エコ」とチャリティをテーマにした渋谷PEACE祭」を代々木公園で開催。フリーマーケットの収益金を「日本エイズストロブ基金」に

「ゴミ拾いなどボランティア活動って、1人ではなかなか始められないじゃないですか。でも、友達や仲間と一緒にやることで、義務感」を忘れ、「楽しさ」が「一番多く来るんですよ。誰が一番多くゴミを拾えるか競争したりとか。その「楽しさ」を入口に始めた